水の花火

我妻　奏大

わたしは、花火を作るかいはつしゃだ。花火を元に水の花火がかいはつされた。

この花火の火薬は小さいつぶで、水たまりにおとすと花火があがる。

夏になるとすずしいし、花火があがった後にはじけて、水がひつような人のところに水がとどく。

ただし水たまりにおとす火薬の数は、一つぶだけだ。二つぶ以上おとしてしまうと花火はあがるが、あがった後にパーンという大きな音がして、水がはじける。そのはじけた水に生き物がふれてしまうと、水になってしまう。

いますぐそのけってんをなくそうとおもったが、わたし以外のかいはつしゃはもう水になってしまっていた。